

C—26 被服構成に關係のある身体計測値の  
年齢的变化

——男女幼・小・中・高校生について——

十文字学園女短大	○古松	弥生
新潟大教育	清水	薫
青山学院女短大	磯谷	藤枝
都立町田高	佐藤	清子

1. 私共は、被服構成学の立場から、身体計測による基礎調査を行なってきたが、今回は被服構成に關係の深い計測値9項目並びに計算値1項目合計10項目を用いて、成長期における男女児の体型の年齢的特徴を観察した。

2. 被検者は東京都内の某私立学校に在籍する健康な幼児、小・中・高校生、男女合計1476名である。計測は幼児、小・中学生は1966年7～9月、高校生は1967年5月に実施した。

研究項目は、身長・下肢長・袖丈・足長・背肩幅・胸囲・胴囲・腰囲・頸付根囲並びに頭囲である。

3. 主な成分はつぎのようである。

a) 身長など長径4項目および背肩幅は、加齢とともに、始めは直線的に漸増するが、男子では中学3年生、女子では小学6年生を過ぎると増加は緩慢となる。

胸囲・腰囲は男女とも、加齢とともに顕著な増加を示すが、胴囲・頸付根囲の増加は比較的小さい。また頭囲の増加は男女とも極めて緩慢である。小学6年生では背肩幅・胴囲・頭囲以外の項目で女子が優れており、高校1年生以後は腰囲を除くすべての項目において男子が優位となり性差は顕著になる。全学年にわたり女子優位の項目は腰囲であり、男子優位の項目は背肩幅・胴囲・頭囲である。

b) 成人値に達するのは男女とも足長が最も早く、次いで下肢長・袖丈・身長順である。全項目が成人値の90%を越えるのは男子では中学3年生、女子では中学1年生である。